

富士市

地形概況

富士火山と山麓の溶岩流地、愛鷹火山などが北部をしめ火山扇状地もみられる。低地は富士川左岸の網状の旧河道をもつ扇状地、潤井川谷底低地、浮島原の后背湿地と愛鷹山麓の扇状地、富士川河口から東にのびる田子浦砂丘などからなる。

地質概況

北部は富士火山の玄武岩溶岩や噴出物におおわれ、裾野に火山扇状地の砂礫堆積層が発達する。火山灰をのせる愛鷹山安山岩地域も東南部にひろがる。富士川扇状地は砂礫層、浮島低地は泥層・シルト層・泥炭層からなる。海岸は田子の浦砂丘となる。

気象概況

年平均気温が 15.0°C で 8 月に月平均気温 30.1°C となり、1 月に最低気温 3.5°C と年較差は 26.6°C とやや大きい。年平均降水量は 2,276mm と県内ではやや少ない。年平均日照時間数は 2,194 時間とほぼ平均であり、1 年を通して日の当たる日が 50% となっている。

災害事例 地震

- 1996 年 3 月 7 日 (平成 8 年) 山梨県東部の地震 M=5.8
山梨県東部が震源で、河口湖で震度 5 を記録した。富士宮市役所の震度計が震度 5 を記録している。富士市では東名高速の遮音壁約 200 枚が損傷したほか、墓石 50 基が倒れる被害が出た。また市水道の配水池遮断弁が作動し、1,300 世帯で翌朝まで断水した。
- 1944 年 12 月 7 日 (昭和 19 年) 東南海地震 M=7.9
県中・西部の被害が大きかった。当地では吉原・富士・元吉原・吉永で震度 5~6、須津・田子ノ浦で震度 5 であった。
- 1923 年 9 月 1 日 (大正 12 年) 関東地震 M=7.9
東京・横浜を潰滅させた大地震であるが、当地でも元吉原村で家屋全潰 6 戸(0.9%)、須津町で 2 戸(0.3%)、今泉村で 1 戸(0.09%)などの被害を生じている。
- 1854 年 12 月 23 日 (安政元年) 安政東海地震 M=8.4
全県下にわたって被害を生じた大地震。当地の被害は吉原で、総戸数 502 戸のところ、潰 276 戸、大破 145 戸、小破 46 戸で火災が起こっている。西船津では総戸数 28 戸で潰 15 戸、依田橋では総戸数 34 戸で潰 34 戸、伝法では総戸数 258 戸で潰 53 戸、大破 64 戸、岩松村では全潰 389 戸、半潰 67 戸などで元市場・吉原辺では地割れから泥水を 9 尺余り噴き上げた。各地の震度は松岡・前田・川成島・本市場・松本・依田橋・富士岡で 7、西船津・平垣で 6~7、比奈・伝法・五味島・岩本で 6、蓼原で 5~6、中里・弥生新田・天間で 5、元吉原・神戸で 4~5 となっている。
- 1707 年 10 月 28 日 (宝永 4 年) 宝永地震 M=8.4
吉原宿では過半数が潰家となり、道路、橋が所々大破した。依田原村・青嶋村・高嶋村・蓼原村・柚木村の村内の百姓家は所々潰れたが、人畜に被害はなかった。震

度は吉原・岩本で6~7、元吉原で5~6と推定される。

- 1633年3月1日(寛永10年)
吉原では家崩れ、地割れが生じたという。

災害事例 津波

- 1944年12月7日(昭和19年) 東南海地震津波
津波の高さは田子ノ浦・富士川とともに1m程度であった。
- 1854年12月23日(安政元年) 安政東海地震津波
田子ノ浦で防波堤が800間流亡したといわれ、津波の高さは3m程度であった。
- 1707年10月28日(宝永4年) 宝永地震津波
吉原旅店津波のため没すという記録があり、津波の高さは、吉原で4m程度であった。

災害事例 高潮

- 1680年9月28日(延宝8年)
吉原・原の宿は水の下になり、数知れずの死者が出たという。屋根の上を船で行往来するようなことが10日以上も続いた。

災害事例 台風

- 1982年8月2日(昭和57年) 台風10号
全県下に被害あり、東海道線富士川鉄橋が流失した。
- 1979年8月18日(昭和54年) 台風10号
県中・東部で被害を生じたが、富士市では床上浸水110戸、床下浸水1,120戸、流失田畑6.3ha、冠水田畑200ha、決壊道路26箇所、堤防62箇所、崖崩1箇所の被害が出た。吉原の1時間雨量は71mm、3時間で143mmの豪雨であった。
- 1976年8月10日(昭和51年) 台風13号
県東部で被害大きく、富士市でも強雨により小河川が氾濫し負傷者1人、全壊2戸、半壊13戸、床上浸水700戸、床下浸水1,992戸、道路決壊1箇所、堤防決壊1箇所、山崩2箇所の被害が出た。
- 1974年7月7日(昭和49年) 台風8号(七夕豪雨)
全県下に被害が出たが、当地でも、死者1人、床上浸水188戸、床下浸水3,276戸、道路決壊3箇所、山(崖)崩5箇所の被害があった。
- 1966年9月25日(昭和41年) 台風26号
全県下特に中部で被害が大きかった。吉原で死者13人、負傷者73人、行方不明1人、全壊86戸、半壊271戸、全半焼6戸、堤防決壊7箇所に及び、富士でも死者2人、負傷者4人、全壊27戸、半壊197戸、田畑冠水4,355ha、堤防1箇所の被害を受けた。
- 1959年8月14日(昭和34年) 台風7号
県中部以東で被害があり。当地では負傷者118人、行方不明1人、全壊56戸、半

壊 319 戸、田畑冠水 110ha に及んだ。

- 1952 年 6 月 24 日 (昭和 27 年) ダイナ台風
御前崎から駿河湾北部を通過した台風で 1 時間雨量が 20~60mm に達した。吉原で浸水家屋床上 90 戸、床下 1,500 戸を出した。
- 1897 年 9 月 9 日 (明治 30 年)
田埋没被害約 5ha、畑被害、梨実収穫皆無であった。
- 1884 年 9 月 15 日 (明治 17)
家屋の全半壊、堤防道路の決壊、流失が多く、死者 1 人を生じた。
- 1869 年 9 月 9 日 (明治 2 年)
万堡堤百数十年間決壊。宮下村から五貫島村までの村々で被害が多かった。流失 10 戸を生じた。

災害事例 豪雨

- 1967 年 4 月 20 日 (昭和 42 年)
富士駅前本町で川が氾濫し、浸水家屋床上 196 戸、床下 1,239 戸、冠水田 26ha、冠水畑 10ha に及んだ。

災害事例 竜巻

- 1950 年 12 月 17 日 (昭和 25 年)
竜巻の経路は静岡市中島→清水市折戸→吉原市の西部を通っていて、樹木や電柱が折れ漁船が吹きとばされた。吉原では負傷者 2 人、全壊 17 戸、半壊 16 戸、電柱 70 本が折れ、富士市では半壊 2 戸、電柱 1 本が折れた。
- 1903 年 9 月 19 日 (明治 36 年)
19 日 5 時ごろ富士郡鷹岡村付近に竜巻が発生し、はじめ南西方より移動し同村天馬をへて北東に進み、久沢村字久沢新田に達し、ここで北西に向きを変え、富士根村字千貫松付近で消滅した。富士郡の被害は死者 3 人、負傷者 48 人、住宅全壊 12 戸、雑建物全壊 11 戸、同半壊 1 戸、電柱倒壊 2 本であった。